

第1学年組 芸術科(書道) 学習指導案				
平成 年 月 日 () 第 校時		教室		指導者 緒方 ひかる
単元名	楷書の学習			
単元目標	<p>○楷書の古典を鑑賞し、その美とその技法に関心を持ち、表現技法を身に付けようとする。 (書への関心・意欲・態度)</p> <p>○漢字の書の美とその技法を学び、普遍性のある表現ができる。 (書表現の構想と工夫)</p> <p>○楷書の基本的な筆づかいを習得し、創造的な表現を身に付け表すことができる。 (創造的な書表現の技能)</p> <p>○初唐の三大家の書風について考察し、書の良さや美しさを感じ取っている。 (鑑賞の能力)</p>			
単元の 評価規準	書への関心・意欲・態度 ・表現技法の基礎・基本を身に付け、意欲的に表現や鑑賞の活動に取り組もうとする。	書表現の構想と工夫 ・漢字の書の美とその技法を学び、普遍性のある表現を工夫している。	創造的な書表現の技能 ・漢字の基本的な点画や線質の表し方と用筆・運筆の関係を理解し、創造的な表現を身に付け表している。	鑑賞の能力 ・臨書する古典の良さや美しさを感じ取り、日常生活の書の効用、文字及び書の伝統と文化について幅広く理解する。
題材(教材)	書道I (『光村図書』) ワークシート			
単元(教材) について	<p>(1) 生徒観：対象とする生徒は県立高校普通科の1年生である。芸術は1コマ×週2回授業が行われる。1つのクラスは30人程度である。書道部に所属する生徒や習字教室等に通っていた生徒が数人いる以外は、主に小・中学校での書写の授業を受けたのみである。よってクラス内での実力の差はほとんどない。学力・学習意欲ともに課題がある生徒もいるが、実技教科に関しては積極的に取り組み、楽しんで活動しようとする傾向がある。生徒は本単元で初めて古典に触れ、臨書に取り組むこととなる。ほとんどの生徒が課題に取り組むことはできるが、中には故意に課題以外の文字を書いたり、私語が目立つ生徒もいる。</p> <p>(2) 教材観：前単元では、書写から書道への導入をすすめてきた。また、用具・用材についても学習してきた。本単元では、初唐の三大家の楷書を取り上げる。生徒たちにまずは美しく整ったスタンダードな楷書を学んでほしいと考えたため、その代表といえる初唐の三大家の「孔子廟堂碑」「九成宮禮泉銘」「雁塔聖教序」を扱う。伸びやかで気品あふれる「孔子廟堂碑」、端正で引き締まった「九成宮禮泉銘」、抑揚と変化に富んだしなやかさのある「雁塔聖教序」、これらは楷書の規範や典型ともいえる。これらの教材を通して、生徒にはそれぞれの古典の特徴をつかみながら、基本的な用筆法や文字構成を習得してもらいたいと考える。</p> <p>(3) 指導観：以上を踏まえて、生徒が古典への興味・関心を深めながら、楽しく楷書の学習に取り組めるように授業を展開したい。本単元では、生徒に楷書の基本的な筆づかいを習得させ、各古典における書風の違いについて理解してもらい、次単元(行書の学習)へと繋がる指導を心がける。また、水書板を用いた指導や授業中の作品添削なども積極的に行い、生徒とのコミュニケーションを十分に図りながら、生徒の理解度や習熟度を把握し、それに適した指導を行う。</p>			
指導計画 (学習計画) 全6時間	主な学習活動		主な評価	
第1次 (1時間)	<p>○楷書の特徴・基本点画について確認する。 (露鋒・藏鋒・背勢・向勢などの用筆法についても確認する。)</p> <p>○初唐の三大家について学習する。 初唐の三大家の概要や書風の特徴をワークシートにまとめる。</p>		<p>○楷書の文字や字形に関心を持ち、基本的な点画や結構・線質などの表現を身に付けようとしている。 (書への関心・意欲・態度)</p> <p>○初唐の三大家について理解し、その表現技法の違いに気づき、的確な言葉で表現している。 (鑑賞の能力)</p>	

第2次 (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> ○「孔子廟堂碑」について学習し、半紙に二字を臨書する。 ○「九成宮禮泉銘」について学習し、半紙に二字を臨書する。 ○「雁塔聖教序」について学習し、半紙に二字を臨書する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○楷書の基本点画を理解し、適切に表現している。 (書表現の構想と工夫) ○初唐の三大家それぞれの書風の違いを理解し、表現している。 (書表現の構想と工夫)
第3次 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> ○第2次で提出された作品を添削したうえで返却する。これまでに学んだ三つの古典について第一次で使用したワークシートを参照し、復習する。 ○前時までに提出した自分の作品(三枚)と各古典とを比較して、特徴を踏まえた臨書ができたか振り返る。 ○近くの席の人の作品を鑑賞し、互いに評価しあう。 ○三つの古典の中から一つを選び、半紙に四字を臨書する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○第1次で学習した内容を踏まえて臨書している。 (書表現の構想と工夫) ○用筆・線質・字形・全体の構成などの具体的な根拠に基づいて作品を鑑賞・評価している。 (鑑賞の能力) ○添削等を踏まえて、技術の向上や創造的な表現を目指して取り組んでいる。 (創造的な書表現の技能)
本 時 案 (第4時)		
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○「雁塔聖教序」の書風を理解し、その表現技法を習得できる。 (書表現の構想と工夫) ○漢字の基本的な点画や線質の表し方と用筆・運筆を理解し、創造的な表現を身につけることができる。 (創造的な書表現の技能) ○「雁塔聖教序」の書風を書のよさや美しさを感じ取ることができる。 (鑑賞の能力) 	
学習活動	指導上の配慮事項など	評価・方法など
「雁塔聖教序」の書風を習得し、効果的に表現できるようになる。		
<ul style="list-style-type: none"> 1 本時の学習内容と目標をとらえる。 2 「雁塔聖教序」の概要について復習する。 3 「雁塔聖教序」の特徴について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の目標を板書する。 ○第1次で使用したワークシートや教科書を見るように生徒に指示する。 ○生徒数名を指名し、時代や作者名などを答えさせる。 ○第1次での復習もかねて、再度「雁塔聖教序」からどのような印象を受けたか生徒数名に答えてもらう。 <ul style="list-style-type: none"> ① 「強い/弱い」「重い/軽い」「にぎやか/さみしい」「あつい/つめたい」など対峙するキーワードを幾つも挙げ、どちらがイメージに近いかを考えさせる。 ② その印象は、どの文字のどのような部分からを受けたのものなのか考えさせる。 ③ ハネ、ハライはどうか、線の強弱や角度はどうかなど生徒の声掛けを行い、更に細かく分析するよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○目標や生徒の発言等を板書する。 ○線質や字形などの構成などの具体的な根拠に基づいて作品を鑑賞できている。 (書表現の構想と工夫)

4 蔵鋒について理解する。	○水書版を用いて蔵鋒について説明する。	○生徒全員に見えるように留意して大きくわかりやすく書いて説明する。
5 半紙に臨書（二字）する。	○机間指導を行う。 ○朱墨を用いて、教卓で生徒の作品添削を行う。 ○字形、用筆・運筆、線質、筆順等をわかりやすく説明する。	○用法・運筆などの技術が作品に表現している。 (創造的な書表現の技能)
6 作品添削で注意された点をふりかえる。	○作品添削をした際に気付いたことや、今回の臨書で気をつけるべき点や間違いやすい点を、クラス全体に簡潔に伝える。	○「雁塔聖教序」の特徴について考察し、表現している。 (書表現の構想と工夫) ○楷書の基本的な筆づかいを習得している。 (書表現の構想と工夫)
7 次の時間に行う内容を知る。	○次の時間の内容を伝える。	

楷書の学習 一年（ ）組 氏名（ ）

☆初唐の三大家について知ろう！

空欄にそれぞれの書の特徴や古典の概要について記入してみてください。

作品名 作者名

「孔子廟堂碑」 （ ）

「九成宮醴泉銘」 （ ）

「雁塔聖教序」 （ ）

☆用筆法や字形について学ぼう！

穂先が点画の端に表れるようにする書き方。



穂先を内側に包みこむようにする書き方。



相対する二本の縦画の中ほどを内側に引き締めた形。緊張感を生む。



相対する二本の縦画の中ほどが外側に膨らむ形。ゆったりとした雰囲気を生む。

